

- 「新しい広島県公立高等学校入学者選抜制度に係る成果と課題」について、御説明いたします。
- 広島県教育委員会では、令和5年度入学者選抜において初めて実施した、新しい広島県公立高等学校入学者選抜制度について、この度、関係団体等からの意見聴取の結果等を踏まえ、成果と課題を整理いたしました。
- 資料の「1 主な成果」を御覧ください。
自己表現の実施や調査書の簡素化、一次選抜の実施等について、それぞれの成果についてまとめております。
- 特に、新制度において、新たに受検者全員に実施をいたしました自己表現につきまして、これは、いわゆる、調査書の所見欄の代わりにもなっておりますけれども、受検者それぞれが自らを見つめ直し、自分なりの工夫をして、多彩で個性的な自己表現が実施されたところでございます。
- このことは、全ての中学校において、
 - ・子供の自己認識、自己開示、自己表現、自己実現に対する理解や、自己開示ができる安全で安心な環境づくりが大きく進んだこと、
 - ・また、こうした環境の中で、子供たち自身に広島県の15歳の生徒に身に付けて欲しい力である「自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる力」が身に付いてきたことの現れであると考えており、何よりも大きな成果と捉えているところでございます。
- 資料の3ページから4ページにかけまして、枠囲みの中に、関係団体等からの主な意見ということで、記載をしておりますが、中学校、市町教育委員会からは、「自分を見つめる機会となった。また、各教科等の授業とも関連して、表現する指導が意識して行われるようになった。教員の授業改善が進んだ。」といった御意見をいただいております。
- また、この度のまとめに当たり、実際に自己表現を行った受検者である現在の高等学校1年生にアンケート調査を実施いたしましたところ、生徒からも「今までの自分を改めて振り返って整理することで、自分について再認識することができたと感じた。」といった声をいただいたところでございます。

- 一方で、1枚目の資料の裏面、「2 主な課題と今後の対応」にありますとおり、改善すべき課題についても捉えているところでございまして、
 - ・一次選抜の第1日の時程の短縮
 - ・自己表現における質問の在り方の改善 などにつきまして、令和6年度入学者選抜から速やかに改善することとしております。

- 今後は、この度のまとめを踏まえ、引き続きまして、各高等学校における自己表現の研修の充実や、中学校、保護者等に対する新制度の丁寧な周知、関係機関との連携等を図ることで、よりよい公立高等学校入学者選抜の実施に努めてまいります。

- それから、このアンケートにあたりまして、今回入試に関わっていただきました中学校・高等学校の先生方、それから、小学校からずっと自己表現の指導をしてくださった方々、それから、関係者の皆様に厚くお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。